

●新刊のご案内

琉球王国は誰がつくったのか

——倭寇と交易の時代

吉成直樹 [元法政大学沖縄文化研究所教授／地理学・民俗学] =著

◎四六判上製／344頁／本体 3200円／ISBN978-4-909544-06-3 C0021

[1月下旬刊]

首里城の王たちは、いったいどこからきたのか？

沖縄はもちろん、日本全国に大きな衝撃を与えた首里城焼失のニュース。

首里城は、15世紀初頭、尚巴志にはじまる琉球国の王城だった。

農業を基盤とし沖縄島内部で力を蓄えた豪族が、抗争の末に王国を樹立したというのが通説だが、これは真実だろうか？ 政情不安定な東アジアの海では、倭寇をはじめ、まつろわぬ者たちがしのぎを削っていた。王国の成立に彼らが深く関わっていたことを多角的なアプローチから立証し、通説を突き崩す新しい琉球史を編み上げる。

●主要目次

第一章 グスク時代開始期から琉球国形成へ——通説の批判的検討

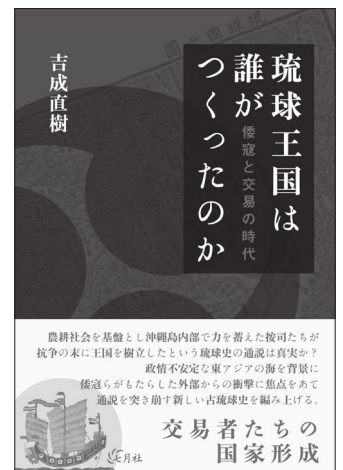
グスク時代開始期／農耕の開始は農耕社会の成立を意味するか／グスク時代初期の交易ネットワーク／十三世紀後半以降の中国産陶磁器の受容／沖縄島社会の変化と交易の活発化／琉球の貿易システムの転換／琉球を舞台とする私貿易／「三山」の実体と覇権争い／倭寇の拠点としての「三山」／琉球国の形成

第二章 「琉球王国論」とその内面化——『琉球の時代』とその後

「琉球王国論」を読む／『琉球の時代』が描く歴史像と特徴／『琉球の時代』の意図するもの／その後の「琉球王国論」の展開／「琉球王国論」の内面化／仲松・高良論争——琉球王国は存在したか

●版元より、書店の皆様へ

焼失してしまった首里城は1992年に再建されたものですが、この再建の契機となったのが「琉球王国論」と呼ばれる一連の歴史研究の成果でした。首里城の姿がそうであったように、「琉球王国論」も、研究だけでなく、沖縄のアイデンティティーの基盤となり、今なお大きな存在感をもち続けています。本書では、その「琉球王国論」を近年の考古学の成果などから再検証し、「琉球王国論」のくびきをはずすと、どのような歴史像（王国成立の前段階）が描けるかを試みたものです。首里城の再建は沖縄文化の復興でもあると思います。迂遠な方法ですが、琉球王国の成立を考える本書が、その文化的な一助になることを祈っています。



株式会社 七月社

☎182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話／FAX：042-455-1385

帳合・番線	注文数	発行：七月社 電話：042-455-1385
		吉成直樹=著 琉球王国は誰がつくったのか 倭寇と交易の時代 四六判上製／344頁／本体 3200円／ISBN978-4-909544-06-3 C0021

ご注文は JRC へ／ FAX 03-3294-2177

* 返品条件付き注文扱い

* JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です